

私が目指す技術者とは

村松 秀一* (静岡大学)

The engineer, all that man ought to be
Shuichi Muramatsu (Shizuoka University)

1. はじめに

パソコンや携帯電話、自動車など科学技術が利用された製品は数えきれないものとなり、我々の生活はこれらの科学技術製品により豊かなものとなってきた。その技科学術を扱う技術者に託される期待は益々大きなものとなっているが、その裏で倫理観の欠如した経営者、技術者による製品を原因とする事故がしばしば発生し、技術者に対する責任、倫理観が重要視され始めている[1]。

また近年、日本の産業は「作って売る」から、「売れるものを作る」という形に変わった[2]。従って、モラルの欠けた信頼性の低い製品を作っているのは消費者に見放されてしまい、企業としての存続は困難となってしまいうだろう。更に、企業活動のグローバル化が進む中で、技術者には国際的に活躍できる人材が求められている。世界に向けて技術を提供する場合、日本特有の倫理や価値観に縛られていては、受け入れてもらえない。従って、進むグローバル化の中で生き残っていくには世界共通の倫理観を持つ必要があると言える。

日本技術者教育認定機構 (JABEE) の認定基準に、技術者倫理への対応が求められたことから、高等教育の場でも技術者倫理が取り扱われることが多くなり、技術者倫理の重要性が広く認知されるようになってきた[3]。

このように様々な観点から技術者には「技術者・専門家としての倫理観」が求められている。本稿では、倫理という点から筆者の目指す技術者について述べたいと思う。

2. 技術者としての在り方、心構え

技術者として先端の技術を身につけ、それをを用いて利益をあげることは重要なことである。しかし、利益面のみを追求し、技術を提供する者としての社会的責任を軽視すると、福知山線の脱線事故[4]のような事例が起こってしまう。

従って、技術者は利益のみを追求して行動するのではなく、それを使用する人々に対する社会的責任を十分考慮して、自分には「何ができるか」、「何をすべきか」を判断し、行動に移せるような人間になる必要があると言える。更に、技術者として法令を遵守した行動をとるのは当然であるが、状況に応じてよりよい対処手段を考える力も仕事の円滑な遂行のためには重要であると思う。

また、新たな科学技術は多くの人々の暮らしを豊かにするが、その反面、今までにはなかった危険をもたらす可能性もある。森タワーの自動回転ドアの事故[4]がその例である。この事故は、技術者の過失に注目して言えば、安全面の設計の甘さ、使用方法の周知の徹底が無かったことにより発生したと言える。

技術者は科学技術の利便性や効率のみに注目するのではなく、科学技術の持つ危険性についても十分考慮したものづくりをするという心構えが必要である。また、ハインリッヒの法則から言えば、1つの重大事故の背景には 300 の異常が存在する。その小さな異常を軽視して見過ごさない職人魂も技術者として重要ではないかと思う。

3. まとめ

本稿をまとめると、筆者が目指すべき技術者とは以下の要素を持ち合わせた技術者である。

- (1) 利益面のみを追求せず、社会的責任を考慮した判断のもとに行動する。
- (2) 技術は利便性と危険性の二面性を持っていると認識し、利用者に最高の状態で提供する。
- (3) 常にプロフェッショナル意識をもって業務に取り組む。

筆者は本年から技術者として社会にでることになるが、本稿で述べた技術者としての責任感・倫理観を忘れることなく、ひとりの技術者として産業社会の更なる発展に貢献していければと思う。

文 献

- (1) 川島 一彦: 「なぜ、今、技術者倫理が求められているのか」, 土木学会誌, Vol. 89, No. 8, pp. 73-75 (2004) .
- (2) 高田 俊晴, 三好 紀臣, 林 正榮: 「-これだけは知っておきたい-ものづくりの基本」, 日本技能教育開発センター (2002)
- (3) 佐藤 之彦: 「技術者倫理教育の現状と課題」, 電気学会全国大会講演論文集, (2009)
- (4) 豊田 淳一「技術者倫理事例集抜粋版」, 社団法人 電気学会 倫理委員会 (2009)